

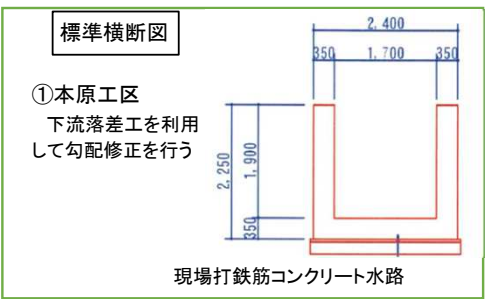


(様式1-2) 新規評価シート

事業名		農村地域防災減災事業		路河川名等	-				
事業毎の通番		1	市町村名	川上村	箇所名(ふりがな)	御所平(ごしょだいら)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	長野県食と農業農村振興計画 長野県農業農村整備計画			関連する事業プロジェクト	-			
	現状と課題	本地区の農地ではレタス等高原野菜のマルチ栽培が盛んに行われている。近年、夏季を中心に局地的な大雨が増加しており、その際は雨水のほとんどが地表排水として降雨直後に下流へ流出するようになった。 大量の雨水は既存の排水路では対応できない状況が続いており、下流地域で溢水被害が発生している。こうした災害が発生すると水路周辺住民の生活を脅かすばかりではなく、周辺農地や公共施設等への被害を増大させるため、排水路の整備が喫緊の課題となっている。							
	事業目的	既存大沢川から分水する山腹水路の増設を行うことで排水の集中を避け、下流部における脆弱部の溢水被害を回避又は軽減することで農業生産基盤の維持、農業経営の安定及び地域住民の生命や財産の安全確保を図る。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2026年度(令和8年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	排水路工 L=650m(高密度ポリエチレン管φ600) 管理道路 L=450m(W=2.5m) 法面保護工 A=1,012㎡				190,000	104,500	30,400	49,590	5,510
事業概要									
	 <p>豪雨時の排水が人家等に流入している様子</p>		 <p>排水路新設予定地の状況</p>						
事業効果	主な受益対象	防災受益 A=10.1ha 排水受益 A=38.1ha							
	期待される効果	雨水の排水路が確保され、溢水などの被害軽減が見込まれる。 洪水時の宅地や公共インフラなどに対する一次・二次災害軽減が見込まれる。				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.9		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域計画(人・農地プラン)により地域農業の将来像を確認							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年10月及び令和2年6月、地域住民や地元村議会議員から要望を受ける。 令和2年11月に地元行政区から要望を受ける。							
	事業説明等の経緯	令和2年12月の村議会定例会において、全村に放映されるケーブルテレビが中継される中で当該水路の改修計画を問う一般質問がなされ、今後の計画を説明。 令和3年4月及び令和4年10月、地元林野保護組合に対し調査実施及び計画を説明。							
評価結果	所管課の意見	排水路未整備による溢水被害が発生しているほか、JR小海線など重要なインフラ施設への被害拡大など農村集落の生活基盤を保全するため、早期の事業着手が妥当であると判断する。						妥当性評価※	優先度評価※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.9
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		






※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

(様式1-2) 新規評価シート

事業名		農村地域防災減災事業		路河川名等	—				
事業毎の通番		2	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	吉田堰(よしだせぎ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	長野県農業農村整備計画			関連する事業プロジェクト	—			
	現状と課題	吉田堰は、一級河川神川から取水し、神川左岸の水田地帯に用水を供給する総延長(幹線区間)5.9km、受益面積292haの幹線水路である。用水路として整備された施設であるが、等高線上に流れる中流区間では、水路山側流域からの排水の受け口となっており、地域の防災面を支える側面も持っている。集中豪雨及び流域の宅地化に伴う雨水流出量の増加により、短時間で水路に雨水が流入し、豪雨時には水路が越水して、複数箇所周辺家屋の床下浸水被害等発生している。							
	事業目的	地域の排水機能を強化するため、水路改修及び分水ゲート自動化等を行い、農業生産基盤の維持、地域住民の生命や財産の安全確保を図ることを目的とする。							
着手年度	2024 年度(令和6年度)		事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2028 年度(令和10年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	水路工延長155m, ゲート自動化5基, 水路橋改修1橋				493,000	271,150	64,090	157,760	—
事業概要									
	 <p>①本原工区</p>			 <p>令和元年7月28日の集中豪雨後 ④矢沢工区2</p>			 <p>標準横断面図 ①本原工区 下落差工区を利用して勾配修正を行う 現場打鉄筋コンクリート水路</p>		
	<p>主な受益対象</p> <p>かんがい受益面積: 292ha、防災受益面積: 6ha</p>								
事業効果	期待される効果	人家の保全、地域の防災機能強化				費用便益比 B/C	1.2		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	本地域は人口の減少がみられず、施設を改修し地域の防災機能を強化することで、施設は将来的にも十分な活用が見込まれる。							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R元年7月28日の豪雨時に水路が越水して床下浸水被害が発生した後、R2年1月土地改良区と堰管理組合から市に要望あり。R3年9月豊殿地区自治会連合会から市に要望あり。							
	事業説明等の経緯	R3年10月地元代表者に対策案について説明実施 R5年2月に堰管理組合及び土地改良区と打合せを実施(事業目的及び整備手法について合意)							
評価結果	所管課の意見	近年多発する局地的大雨や流域の宅地化等により、用水路への雨水流入による溢水被害が発生しているほか、県道矢沢真田線など重要なインフラ施設への被害拡大など、農村集落の生活基盤を保全するため、早期の事業着手が妥当であると判断する。						妥当性評価 ※	優先度評価 ※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	4.3
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

(様式1) 新規評価シート

事業名		農村地域防災減災		路河川名等	—																			
事業毎の通番		3	市町村名	飯山市、木島平村	箇所名(ふりがな)	木島2(きじまに)																		
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 災害に強いインフラ等の整備の推進		SDGsの関連目標	 																			
	関連する計画や重点施策	長野県農業農村整備計画、長野県強靱化計画 長野県地域防災計画、飯山市地域防災計画 飯山市国土強靱化地域計画、木島平村国土強靱化地域計画		関連する事業プロジェクト	信濃川水系緊急治水対策プロジェクト																			
	現状と課題	千曲川と樽川に囲まれた低地農地の内水排除を目的に、昭和44年から昭和52年にかけて整備された施設であり、老朽化による機能低下が進んでいる。また、近年に頻発する異常降雨等に伴う流域内の排水状況の変化による能力不足や大規模災害時の施設水没による機能喪失等、湛水被害が拡大するおそれがある。																						
	事業目的	既存施設の増強及び更新により、農地・農業用施設の湛水被害を防止するとともに、農地を取り巻く人家、公共施設等の安全確保を図る。																						
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)																		
完了年度(予定)	2028年度(令和10年度)					国庫	その他	県債	一般財源															
全体事業内容	排水機場改修工 N=2箇所				2,700,000	1,485,000	216,000	899,000	100,000															
事業概要			<table border="1"> <tr> <td>現況</td> <td>計画</td> </tr> <tr> <td>排水量 Q=2.1m<sup>3</sup>/s (φ700)</td> <td>Q=2.2m<sup>3</sup>/s (φ700)</td> </tr> <tr> <td>ポンプ N=2台</td> <td>N=2台</td> </tr> </table>		現況	計画	排水量 Q=2.1m <sup>3</sup> /s (φ700)	Q=2.2m <sup>3</sup> /s (φ700)	ポンプ N=2台	N=2台	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">凡例</th> </tr> <tr> <td>流域</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受益地</td> <td></td> </tr> <tr> <td>導(排)水路</td> <td></td> </tr> <tr> <td>導水路改修</td> <td></td> </tr> <tr> <td>河川</td> <td></td> </tr> </table>		凡例		流域		受益地		導(排)水路		導水路改修		河川	
	現況	計画																						
排水量 Q=2.1m <sup>3</sup> /s (φ700)	Q=2.2m <sup>3</sup> /s (φ700)																							
ポンプ N=2台	N=2台																							
凡例																								
流域																								
受益地																								
導(排)水路																								
導水路改修																								
河川																								
 <p>令和元年災 木島第二排水機場 導水路まわり湛水状況</p>		 <p>現 木島第二排水機場 新 木島第二排水機場 現 戸那子排水機場 管理橋が無く危険な樋門 新 戸那子排水機場 戸那子排水機場</p> <table border="1"> <tr> <td>現況</td> <td>計画</td> </tr> <tr> <td>排水量 Q=6.65m<sup>3</sup>/s (φ1000)</td> <td>Q=7.5m<sup>3</sup>/s (φ1000)</td> </tr> <tr> <td>ポンプ N=3台</td> <td>N=3台</td> </tr> </table>		現況	計画	排水量 Q=6.65m <sup>3</sup> /s (φ1000)	Q=7.5m <sup>3</sup> /s (φ1000)	ポンプ N=3台	N=3台															
現況	計画																							
排水量 Q=6.65m <sup>3</sup> /s (φ1000)	Q=7.5m <sup>3</sup> /s (φ1000)																							
ポンプ N=3台	N=3台																							
事業効果	主な受益対象	農地(田・畑) A=74.5ha、下水処理場 N=1箇所、国道403号線、県道38号線																						
	期待される効果	・災害防止効果 ・地域住民が安心して暮らすことができる			費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.8																		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	信濃川水系緊急治水対策プロジェクトに位置付けられ、流域治水対策の一翼を担う施設であり、受益地のみならず千曲川沿川地域の治水安全度向上に寄与。																						
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元区は、施設の老朽化に伴う機能低下を心配しており、飯山市、木島平村へ施設の改修要望が出されている。地元区で運転管理委員会を組織し、市村の指導監督のもと、排水機の運転及び管理を行っている。																						
	事業説明等の経緯	毎年4月中旬に行われる排水機場運転者会議において、施設改修の内容、スケジュールを説明済み。																						
評価結果	農政部公共事業評価委員会の意見	排水機場ポンプ設備の老朽化に伴う機能低下が生じているほか、大規模災害時の浸水等による機能喪失など湛水被害拡大を防止するため、早期の事業着手が妥当であると判断する。					妥当性評価※	優先度評価※																
	長野県公共事業評価委員会の意見	農政部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。					○	4.3																
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	県の評価案は妥当	評価の決定	事業着手																		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)